

神を待ち望め

賛美の礼拝

2008/7/27

日本の歌・詩

- 旋律のある歌
 - 民謡, 雅楽, 声明, 能, 浄瑠璃, 長唄(三味線), 箏曲, 尺八唄など
- 旋律のない歌(詩)
 - 短歌, 長歌: 万葉集, 古今和歌集, 百人一首
 - 俳句, 川柳: 松尾芭蕉や小林一茶など
- 日本の歌の題材
 - 恋・自然・人生・
- 日本人は宗教的な民族だが宗教的な歌は少ない
 - 4, 500首以上からなる万葉集の中でたった一首

詩篇42篇

- 1【指揮者によって。マスキール。コラの子の詩。】
- 2 涸れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める。
- 3 神に、命の神に、わたしの魂は渴く。いつ御前に出て／神の御顔を仰ぐことができるのか。
- 4 昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。人は絶え間なく言う／「お前の神はどこにいる」と。

5 わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす／喜び歌い感謝をささげる声の中を／祭りに集う人の群れと共に進み／神の家に入り、ひれ伏したことを。

6 なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻(うめ)くのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう／「御顔こそ、わたしの救い」と。

7 わたしの神よ。わたしの魂はうなだれて、あなたを思い起こす。ヨルダンの地から、ヘルモンとミザルの山から

- 8 あなたの注ぐ激流のとどろきにこたえて／深淵(しんえん)は深淵に呼ばわり／砕け散るあなたの波はわたしを越えて行く。
- 9 昼、主は命じて慈しみをわたしに送り／夜、主の歌がわたしと共にある／わたしの命の神への祈りが。
- 10 わたしの岩、わたしの神に言おう。「なぜ、わたしをお忘れになったのか。なぜ、わたしは敵に虐(しいた)げられ／嘆きつつ歩くのか。」

11 わたしを苦しめる者はわたしの骨を砕き／絶え間なく嘲(あざけ)って言う／「お前の神はどこにいる」と。

12 なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／なぜ呻くのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう／「御顔こそ、わたしの救い」と。わたしの神よ。

人と神との関わり

- 二つの苦しみを抱える筆者
 - 解決の難しい問題(囚われの身?)
 - 神を愚弄されることへの腹立ち
- 必死に神を求める筆者
 - 「涸れた谷に鹿が水を求めるように」
 - 自分に語りかけ、気持ちを奮い立たせる
- 筆者にとって神とは
 - 「命の神」「救い」「岩」
 - 親友・恋人・家族・・・のような深く親しい存在